福山

エネルギー会社からの提案
太陽光発電と燃料電池のことなら
JXTGエネルギー㈱特約店
土居石油株式会社
フリーダイヤル 0120 121367

フロントライン／備後

備後デニム 活発PR

工場ツアー／アニメ／カープグッズ

備後圏域のデニム関連産業をPRする動きが活発だ。福山、井原市や企業などが進める「備中備後ジャパンデニムプロジェクト」が企画している。一定の成果は出ているが、技術や素材の強みは伝わりにくい面もある。PRだけでなく、産業を育てる中長期的な戦略が求められる。（榎本直樹）

商品開発で広がる連携

2月22日、地元の学生たち14人が福山市に本社を置くデニム関連3社を訪れた。プロジェクトが主催した「デニムツアー」。一般の人にも現場を見てもらい、認知度を高めようと初めて開いた。

山陽染工の工場で、戸板取締役（中央）にインディゴ染めの仕組みを教わる参加者

山陽染工では、生地を染める様子や、デニムの染料を薬剤で抜いて複雑な柄を生む「段落ち抜染」などを見学した。戸板一平取締役経営管理本部長は「抜染には備後絣（がすり）の技術が生きている。デニムとの相性は抜群」と強調した。

16年に活動開始

福山市一帯は江戸期以降、備後絣の産地として栄え、染めや織りの技術がデニム産業を育んだ。プロジェクトは2016年9月にスタート。圏域にまたがる産業をPRし、売り上げ増や人材育成、ブランド化を目指す。

福山市が事務局を務め、17年度の予算は941万円。これまでデニム産地の物語を伝えるアニメをインターネットで発信したり、デニムツアーを開いたりしてきた。今後もデニムを使った商品開発などを企画する。

福山市内には染めや織り、洗い加工といった素材関連が多い。ジーンズ店が並ぶ倉敷市児島地区と比べ、一般向けの商品や観光できる場所は少ない。福山市産業振興課は「企業間の取引が多くPRは難しいが、徐々に知名度は上がっている」と受け止める。

デニム業界は、海外メーカーとの競合もある。安さとデザイン性を兼ね備えた衣料品ブランドの成長、ネット販売の拡大などで競争は激しい。素材の強みを発信する必要性が増している。

あるデニム関連企業の社長は「安定した仕事がないと雇用や技術を守れない。展示会に出ても即受注にはつながらず、信頼関係も大切。一義的には企業の責任だが、行政の後押しも必要」と訴える。

ソファの生地に

新たな商品化の動きも出てきた。広島東洋カープは2月、デニムを使ったグラブやボールなどの新グッズを発売。府中市の家具メーカーはソファの生地に生かした。衣料品の枠にとどまらない連携が生まれている。

プロジェクトのメンバーで、篠原テキスタイル（福山市駅家町）の篠原由起さん(35)は「素材が得意だからこそ、いろいろな分野に売り込める。多彩な発信方法を考えたい」と力を込める。

ふるさと納税

報告書に収支も要求

神石高原町 寄付受けた法人に

神石高原町は4月から、ふるさと納税制度で町内のNPO法人に寄付があった場合、法人が町に提出する実績報告書に収支決算の記入を求める。寄付額が増える一方で報告書の記述が形式化しており、使途の把握が難しかったため。厳格化により透明性を高める。

町によると、対象は町内のNPO法人7団体。年度末に、寄付金の使い道の詳しい内訳を書いた報告書の提出を求める。近く本年度の収支決算や次年度の計画書の報告を受け、4月以降に町のホームページ（HP）で公開する予定。

寄付金の交付は法人によって年に複数回あり、これまでは交付のたびに法人が「取り組みに関する活動経費として」などとあいまいな表記で報告書を提出していた。町まちづくり推進課は「団体や団体の活動を指定した寄付で、町が内訳を確認する体制ではなかった」と話す。

町内のNPO法人などの事業を応援するふるさと納税は2014年度に始まり、16年度までに約9億8千万円の寄付があった。同課は「決算報告は寄付者の判断材料になる。活動のPRの場としても機能させたい」と話している。（高本友子）

クリック

神石高原町のふるさと納税　2008年度に開始。14年度、自治振興会やNPO法人への支援が加わった。町内の自治振興会30団体とNPO法人7団体、協働支援センター4所から支援先を選ぶ。支援を希望する団体に寄付金の95%を交付し、5%は町の事業に使う。NPO法人ピースウィンズ・ジャパンは犬の殺処分をなくす取り組みに特化して募っている。

豪雨や温暖化 天達さん解説

3日福山

中国地方の天気などをテーマにした環境保全講演会が3日午後1時から、福山市東桜町の県民文化センターふくやまである。フジテレビ系情報番組「とくダネ！」に出演している天気予報士の天達武史さんが講演する。

「天気の達人から見た天気と地球温暖化」と題して、豪雨などの取材話や地球温暖化の現状と対策、2100年の天気予報などを話す。環境保全に取り組んだ団体や個人の表彰式、空気清浄機などが当たる抽選会もある。

入場無料。先着530人。環境にやさしいまち福山実行委員会主催。事務局の市環境啓発課☎084（954）2619。

福塩線フォト 7図書館巡る

神辺で開始

JR福塩線沿線の7図書館が、リレー形式で同線の風景を切り取った写真展を開く。28日、福山市神辺町の市かんなべ図書館で展示が始まった。福山、府中、三次市と世羅町で同じ内容の展示がある。

福塩線対策協議会が昨年募った写真コンテストの入賞作10点を展示する。紅葉や雪景色の中を進む列車、ホームで談笑する学生などを写した力作が並ぶ。

沿線の風景や人の営みを写した力作が並ぶ市かんなべ図書館

訪れた福山市神辺町のパート従業員小原五十鈴さん(65)は「哀愁漂う美しい写真がいっぱい。普段は利用しないが乗ってみたくなった」と見入っていた。

ことしの全通丸80年に合わせ、魅力を伝えようとかんなべ図書館が企画。他の図書館などに呼び掛けた。（河合佑樹）

かんなべ図書館は12日まで。ほかは次の通り。福山市北部図書館（14～25日）▽市新市図書館（27日～4月5日）▽府中市立図書館（4月7～15日）▽同館上下分室（4月18～22日）▽世羅町甲山図書館（4月24日～5月10日）▽三次市立図書館（5月12～23日）

鷹取中学校区に「学校元気大賞」

あいさつ運動評価

福山市教育委員会は28日、鷹取中学校区に「福山学校元気大賞」の大賞を贈った。鷹取中、霞小、光小の3校で連携して取り組むあいさつ運動が、子どもの主体性を育んでいると評価された。

同学区では毎月17日に、各校の児童生徒がお互いの校門に行き、あいさつする活動をしてきた。2013年から取り組み、地域や学校内の活性化につなげた。

市役所で表彰式があり、三好雅章教育長から鷹取中の田丸誠校長たちに表彰状が贈られた。田丸校長は「日頃の地道な活動が評価され、励みになる」と笑顔で話した。

受賞を喜ぶ鷹取中学校区3校の校長と教諭

賞は15年9月に創設された。城北中学校区は優秀賞、常金中学校区は奨励賞。城南中学校区、旭小、津之郷小、神辺東中に特別賞が贈られた。

文芸

俳句（三島敏恵選）

やがて子に従ふたつき春炬燵　（尾道・山口　勝子）

【評】「老いては子に従え」とはよく言われるが、できるだけ自立した生活をしたいと誰もが願う。春ごたつの心地よさについ、考えてしまう今日この頃である。

雪帽子自深にかむり六地蔵　（福山・客野　勉）

ひしめきて意地のぶつかる裸押　（福山・廣本　貢一）

列島に想定外の寒波来る　（三原・金川　博行）

立春やオリオンまぎれなく並び　（福山・森田　英子）

通夜の客焚火に映ゆる顔白き　（尾道・小畑　宣之）

初弓や太鼓合図に放たれし　（福山・藤井　一女）

鞆の津に琴の音響く春の海　（福山・長谷川　瞳）

杖ついていつもの散歩冬ぬくし　（府中・荊井　千代）

早春や野鳥の紋のきはやかに　（尾道・半田　妙子）

◇

次回は短歌を掲載します。

＜宛先＞短歌ははがき1枚に3首、俳句は5句、川柳は3句まで。〒720－0805福山市御門町3の2の13、中国新聞備後本社編集部・文芸係まで。電子メールbingo@chugoku-np.co.jpでも受け付けます。短歌、俳句、川柳のいずれであるかを明記してください。